

＜地域公共交通計画の評価等結果の様式＞						
延岡市地域公共交通計画の評価等結果（令和6年4月～令和7年3月）						
目標		目標を達成するための取組	調査方法	達成状況・分析	評価・次年度に向けた課題や取組	備考
【目標1】 市民の暮らしを支える市内交通ネットワークの最適化	1－1 市内幹線バスにおける利用者数の回復（人/年） 335,083（R4）▶▶▶ 388,528 以上（R10）	事業1 市民の生活行動に応じた市内バスネットワークの再編	バス事業者からの実績報告	実績：317,219人（R6） ※R5:328,496人 ・みやざきシニアバスなどの利用促進策により、利用回復が見られた路線もあるものの、総合的には減少傾向にある。	・北部・南部まちなか循環バスを通じて路線バスの利用促進につなげる。 ・路線再編にあたっては、運転士不足を考慮して交通事業者と適宜協議・検討を進める。	
	1－2 中山間地域・市街地部における支線交通の利用者数の回復（人/年） 47,441（R4）▶▶▶ 47,500 以上（R10）	事業2 効率的かつ利便性の高い公共好通サービスの実現 事業3 細かなニーズに対応した支線交通の維持・最適化	交通事業者からの実績報告	実績：60,992人（R6） ※R5：56,702人 ・現時点ですでに目標を達成することができている。特に、まちなか循環バスの利用が増加している。	・北部・南部まちなか循環バスの運行により、まちなか循環バスをはじめとする支線交通の利用促進を図る。 ・利用の少ない路線については、運行内容等の見直しを図り、サービスの最適化に努める。	
	1－3 市民1人当たりの移動支援額（公的資金）の適正な支出（円/人） 3,174（R4）▶▶▶ 3,174以下（R10）	事業4 交通事業者・行政の連携強化を図る体制の構築	市の支出状況の確認	実績：3,465円（R5） ※R6の数値は未確定 ・前年度と比較して増加している。特に、路線バスへの補助や乗合タクシー委託料の増額が顕著である。	・市が補助を行っている路線について、優先的に路線再編を検討するとともに、運行形態等については市内の交通事業者と協議・検討を進める。	
【目標2】 地域全体で育て・支え合う持続可能な交通環境の創出	2－1 多様な関係者が連携・協働（共創）した取組の増加（件） ―（R5）▶▶▶10以上（R10）	事業5 多様な関係者との連携を通じたモビリティマネジメント 事業6 地域の総力を挙げた取組の推進・支援 事業7 他分野との共創による持続可能な公共交通サービスの構築 事業8 交通事業者のリソース（運転士・車両等）の確保に向けた対策・支援	交通以外の分野と連携した取組みの実績確認	実績：11件 ※R5：5件 ・交通分野のみならず、福祉や環境分野の機関と連携・共創して公共交通利用促進の取組みを行った。	・公共交通の利用促進施策について、引き続き関係機関との連携・共創を進めていく。	
	2－2 地域交通をわがごととして考える機会の創出 ①地域座談会・住民説明会等の開催件数（地域） ―（R5）▶▶▶ 10 以上（R10） ②バス事業者と住民・学生の意見交換会の開催件数（回） ―（R5）▶▶▶ 5以上（R10）		①②開催実績確認	①地域座談会・住民説明会等の開催件数（地域） 実績：2件 R5：0件 ・行藤地区、舞野地区のデマンド交通導入に当たり、地域住民への説明会を実施した。 ②バス事業者と住民・学生の意見交換会の開催件数 実績：0件（R6） ※R5：0件 ・北部・南部まちなか循環バス実証運行などの路線再編を優先して取り組んだため、実施できなかった。	・路線再編を検討するに当たり、住民のニーズを詳細に把握するために地域座談会に取り組むとともに、路線再編の方向性を定めた場合は住民説明会等を開催する。 ・バス事業者と住民・学生との意見交換会を実施するため、意見交換の内容やスケジュールなどを協議・検討する。	
	2－3 地域公共交通の市民1人当たりの年間利用回数の増進（回/人） 4.82（R4）▶▶▶ 5.00 以上（R10）		交通事業者からの実績報告	実績：5.04回（R6） ※R5：4.84回 ・人口減少の一方で、路線バスや乗合タクシーの利用が増えたため、回数が増加した。	・バスの利用促進を強化するため、延岡市バス利用促進協議会で引き続き様々な利用促進施策を実施しつつ、県バス利用促進協議会の施策も踏まえながら効果的な利用促進施策を検討する。	
【目標3】 多様な人と交通が集まり快適で賑わいある交通結節点の機能向上	3－1 延岡駅における路線バスの乗り継ぎしやすい接続本数（本/日） 137（R5）▶▶▶現状の水準を維持（R10）	事業9 主要駅における交通結節機能の強化・賑わい創出	－	－	－	計画最終年度に評価するもの（R10）
	3－2 市民が安全で利用しやすい情報が分かりやすい乗り場・利用環境の整備（箇所） 10（R5）▶▶▶20以上（R10）	事業10 利用の前提となる情報提供・利用環境の充実	－	－	－	計画最終年度に評価するもの（R10）
【目標4】 広域交通ネットワークの維持・活性化	4－1 鉄道（JR延岡駅・南延岡駅）及び離島航路の利用者数の回復・維持 ①延岡駅・南延岡駅の乗車人数（人/日） 1,748（R4）▶▶▶2,010 以上（R10） ②離島航路の年間利用者数（人/年） 87,847（R5）▶▶▶87,847 以上（R10）	事業11 広域幹線交通のサービス継続・利用促進	①鉄道事業者の公表資料 ②交通事業者の実績報告	①延岡駅・南延岡駅の乗車人数 実績：1,878（R5） ・南延岡駅バリアフリー期成会の取組みの一環として、地域住民や高校生とともに南延岡駅の清掃活動を行った。 ②離島航路の年間利用者数 実績：89,009.5人（R6） ・島の人口減少が進む中、令和4年3月にオープンした飲食店などを目的に来島する観光客等の利用により、利用者数や旅客運賃収入は前年度と同水準を維持することができた。	・地域住民の鉄道に対する意識醸成のため、南延岡駅バリアフリー期成会の取組みとして、イベントや意見交換会等を検討する。 ・老朽化したフェリーのリプレイスに向けて、引き続き航路改善計画に沿った取組を実施し、経費の削減に努める。 ・利用客の中心である島民の利用促進と負担軽減を図るため、国の制度を活用した離島住民運賃割引補助の実施に向けて、関係者で準備を進める。	
	4－2 地域間幹線バスにおける利用者数の回復・利用促進の推進 ①市内を運行する地域間幹線系統の年間利用者数（人/年） 171,779（R5）▶▶▶243,012 以上（R10） ②「バスの日」・「宮野浦線」の実施日（日） ―（R5）▶▶▶ 5以上（R10）	事業12 広域連携による地域間幹線の維持・活性化	①バス事業者の実績報告 ②バス事業者等が開催したイベントの実績	①市内を運行する地域間幹線系統の年間利用者数 実績：194,082人（R6） ②「バスの日」・「宮野浦線」の実施日 R6実績：1日 ・地域間幹線系統の人数は昨年度より増加している。 ・宮野浦線の利用促進イベントの一環として、延岡市バス利用促進協議会でバスイベントを開催した。	・県や関係市町と連携しながら、利用促進施策について協議・検討を進める。 ・宮野浦線については、路線再編検討を進めつつ、引き続き延岡市バス利用促進協議会の取組みとして利用促進イベントを開催する。	